

NPO 法人 日本ビオトープ協会
第 17 回顕彰受賞ビオトープの紹介

◇顕彰委員会委員長の講評・報告

『ビオトープフォーラム in 札幌 2025』2025 年 6 月 13 日、札幌市教育文化会館 4F 講堂にて

最初に、今回顕彰されました 各団体の皆様にお祝い申し上げます。

本年 4 月 15 日に顕彰委員会を開催。各支部からの推薦を受けた案件は、いずれもビオトープ造成、維持管理、環境教育、ステークホルダー、地域貢献などで優れた取組みであり、高く評価できるビオトープでした。

◎学校ビオトープ大賞を受賞されました、茨城県「中庭プロジェクト 上大野小ビオトープ」は、校内のコンクリート池を活用し、生物多様性を豊かにする様々な水辺の創出がなされています。また、田畑耕作地も設け、協働の喜びや気づきを提供できる空間になっています。子供達が主体的な取り組みをしており、教職員の意識も高く、継続的な活動と生物の生息環境の充実が期待できます。

◎協会会長特別賞に選定された、北海道「平取地域イオル再生事業」は、アイヌ伝統のイオル再生事業（アイヌの伝統のイオルの森、水辺空間、コタン（集落）の再現等）で、ビオトープの思想と共通するものです。イオル型複層林の育成管理や水辺モニタリングを、平取町が主体となって長期的に取り組んでいます。

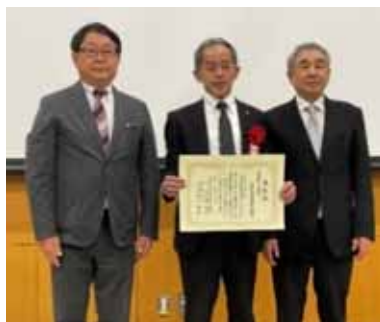
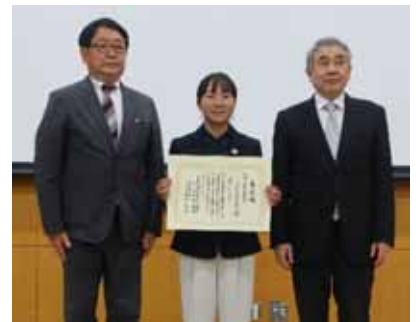
◎審査委員長賞受賞の富山県「バタフライガーデン(北陸電気工事(株)技術開発センタービオトープ)」は、地域のシンボル木のカラスザンショウ（アゲハチョウ食草）を残し、雨水を利用した池周辺に蝶の食草、蜜のある花木を植栽し昆虫との共生が図られています。幼稚園や学校、地域住民に利活用されています。

◎環境教育賞の愛知県「ナカバイオ（ホタルが舞う学校ビオトープ）」は、ホタルが舞う学校づくりを目指す豊田市立中金小学校の学校ビオトープです。ビオトープ管理とホタル飼育を担う「中金ホタル保存会」が活動しています。減少するホタル生息地の拠点として、地域住民と学校の繋がりの場でもあります。

◎地域活動貢献賞に選定された、岩手県「根浜ビオトープ」は、釜石市において震災前の自然環境の再生を目指すビオトープです。湿地環境を再生させだけではなく、水辺の生物多様性を育むことで、観察モニタリング及び体験教育を行う地域のビオトープとしての活用を目的としています。

今回、以上 5 件を顕彰させていただきました。各団体におかれましては、ビオトープの普及啓蒙、環境教育、地域活性化につながる活動を継続していただくようお願い申し上げます。

（協会顕彰委員長 鈴木邦雄代表顧問）



※フォーラムの顕彰事例発表「上大野小ビオトープ」「平取地域イオル再生事業」は、YouTube にて映像公開中です。YouTube にて [「ビオトープフォーラム札幌」](#) で検索をお願いいたします。

◇学校ビオトープ大賞

【下記各顕彰書類より転記】

名 称	中庭プロジェクト 上大野小ビオトープ
受賞者	水戸市立 上大野小学校、株式会社 田寺緑地土木、株式会社 砂押園芸
【テーマ・概要】 水戸市では、豊かな自然環境の中で、特色ある教育活動や少人数によるきめ細かな指導を行っている学校を「小規模特認校」として指定しています。上大野小学校は平成 30 年よりこの認定校となりました。現在 75 名の児童が在籍し、充実した設備の中、観察・実験、ディスカッション学習など、魅力ある理科・環境教育を推進しています。 そして、活動の中心には学校中庭のビオトープが活用されています。このビオトープは、令和 4 年に整備され「上大野の自然を中庭に再現しよう」というテーマに沿って制作され、畑・田んぼ・池や流れなどから構成されています。 具体的な活動は、子供たちの興味や関心にあわせ 3 つの班編成で行い、それぞれ調査、分析・検討、発表・改善策までサイクル的に活動を行っています。 【整備方針と管理手法】 本施設は、令和 2 年に計画がスタート、現地調査、意見交換を重ね、放置されていた中庭のコンクリート池を活用し、令和 4 年に学校ビオトープとして整備されました。ビオトープ内には、校舎から排水される雨水の有効利用を目的とした 2000ℓ の貯留タンクを設置、流れに活用すると同時に、散水などにも使えるようにしています。 水辺に造られた多様な環境はエコトーンを形成し、多くの動植物が生息しています。本年度は県自然博物館専門家の指導を受け、生物調査を行いました。このほか、田んぼや畑での作物栽培を通して、地域の自然環境や人々の営みを知る、体験の場として活用しています。 このような環境の中で、児童たちは活動における問題に対して、その対策、解決、結果についてまとめるなど、主体性を持って活動しています。また、職員においては地元大学の協力を得て研修会を実施、本活動への取り組みの工夫について研究を行い、積極的に関わることができています。 今後、この小さなビオトープとその活動を通して、人と人を繋ぎ、地域と一体となって身近な自然と、子供たちの心を守り育てて生きたいと考えています。	



◇協会会長特別賞

名 称	平取地域イオル再生事業
受賞者	平取町、株式会社 平取町アイヌ文化振興公社、平取アイヌ協会
【テーマ・概要】 アイヌ文化の中心的地域の一つである平取町では、アイヌ文化を支える伝統的生活空間(イオル)の再生事業が次の 3 項目で行われている。①イオルの森整備: 樹木や草本などの自然素材の確保が持続的に可能となるイオルの森を創造、②コタン(集落)の再現: 自然素材の採取/加工/利用を通じた伝統的な文化活動の実践の場としてのコタンを再現、③水辺空間整備: チセ(家)の復元や生活民具の複製及び伝統料理に必要な自然素材や食材の採取が可能な水辺空間の整備。 【整備方針と管理手法】 長期的な視点に立ち、アイヌ文化を育んできた自然の再生により、アイヌ文化に必要な自然素材の供給システムの構築やコタンでのアイヌ文化継承者(実践者及び伝統工芸技術の伝承者)による体験活動など、アイヌ以外の人々への概括的な普及・啓発にとどまらない、より専門的・高度な活動の拠点としての性質を担う「活動型イオル」を目指して、アイヌ文化継承者の育成を図るほか、ネットワークとしての他の地域への自然素材の供給も視野に入れた事業を実施する。	



◇審査委員長賞

名 称	バタフライガーデン(北陸電気工事(株)技術開発センタービオトープ)
受賞者	北陸電気工事株式会社、株式会社久郷一樹園
【テーマ・概要】 同会社の既存の能力開発センターの隣接地に新たに建設された技術開発センターの敷地のコーナーに設けられたビオトープである。元々、既存樹として地域のシンボルツリーでもあったカラスザンショウとケヤキを残し、特にカラスザンショウの特性でもある、アゲハチョウ科の蝶の食草であることを生かし、バタフライガーデンを作ることとした。上段の建物と駐車場の雨水を利用して流れと池を作り、周辺に蝶の食草となるセリ・ウマノスズクサ・ブッドレア・ハンゲシヨウ等を植栽した。蜜を吸うための花木として、ヤマボウシ・ドウダンツツジ・サザンカ・コデマリ・サツキ・ヒラドツツジ・アジサイ・ハナショウブ等を、それらを取り囲むように植栽している。また、池にはガマやヨシなどの水草を植栽し、他の昆虫との共生も図っている。	



【整備方針と管理手法】

元々、ここは地域の広場としても活用されてきた場所であり、今回作られたビオトープも地域の人々に開放されており、いつでも自由に活用することができるようになっている。又、春から夏にかけて蝶の産卵時期には、近隣の幼稚園や小学校の生徒の環境教育の場としても活用されている。

ビオトープの管理は植物や蝶を中心とした昆虫や生物に興味と理解のある職員が中心となり、年間を通じた草刈りや捕植などの維持管理を熱心に行っている。作られて3年が経つが、健全に維持育成が図られている事は評価に値する。



◇環境教育賞

名 称	ナカピオ（ホタルが舞う学校ビオトープ）
受賞者	豊田市立中金小学校 中金ホタル保存会、株式会社鈴鍵

【テーマ・概要】

中金小学校は、愛知県の中でラムサール条約に登録される矢並湿地、上高湿地及び恩真寺湿地に代表される湧水湿地が集中する地域に近い。また、校区内の湿地ではハッチョウトンボ、ヒメタイコウチなどの昆虫類のほか、校庭を貫流するカ石川にはホトケドジョウやスナヤツメなどの希少な魚類の生息も確認されている。

校庭にビオトープを整備することにより、児童や教員、地域住民がこれらの生物やその生息環境への理解を深め、重要性を認識し、さらにはそれらの生息地の保全を意識したくらし方への発展が期待できる。また、整備した環境が、校区に点在する小規模な水辺環境と連携し、生物の生息環境の質を向上させる効果もある。

【整備方針と管理手法】

本校は、地区に少なくなったホタルを復活させようと、長年「野口ホタルの会」の小笠原政巳様を地域講師に迎え、4年生が「ホタルの飼育」を行ってきた。令和6年3月に活動の中心となるビオトープが完成し「ホタルが舞う学校づくり」を目指した活動に変化した。令和5年度に「中金ホタル保存会」が発足し、ビオトープの管理からホタルの飼育まで担当する組織が出来上がっている。学校では、株式会社鈴鍵の社員の方の指導の下、ビオトープ学習会やビオトープ周辺の草木の管理も児童を巻き込んで行っている。また、「中金ホタル保存会」の呼びかけでホタルの幼虫を育てる活動が地域の家庭に広がっており、2月～3月にかけて育てたホタルの幼虫をビオトープに放流している。ビオトープ内には、児童や地域の方たちが放ったカワニナの繁殖が確認できている。



◇地域活動貢献賞

名 称	根浜ビオトープ
受賞者	かまいし環境ネットワーク、株式会社かまいしDMC、株式会社佐野建設

【テーマ・概要】

2011年3月の東日本大震災・大津波の襲来により破壊されてしまった、地域の豊かな海辺や水辺の環境を取り戻し、生物の生息環境を創出するため、地元環境団体「かまいし環境ネットワーク」が、地域で持続可能な観光を進める「かまいしDMC」と連携。生物の観察やさわ水の状況などを熟考し、およそ5年の構想を経て、地元「釜石東ロータリークラブ」の寄付により造成した。トウホクサンショウウオやシュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエルなどの生息が造成前より確認されており、日本ビオトープ協会北海道東北地区委員会のご指導の下に、それらの生き物に、より適した、かつ震災前の環境を再生させた。また再生させるだけでなく、地域の水辺の生物多様性を育み、観察モニタリング及び体験教育を行う地域資源として活用することを目的としている。

【整備方針と管理手法】

「地域の自然の特色をまもり、小さな生き物への愛情を育む」を方針に、近自然の設計を行い、自然に起こる変遷に柔軟に対応しながら整備を進めている。具体的には、豪雨や濁水の際には周囲の環境に合わせて工夫を行い、そこにある自然なものを使い対処するなどしている。管理は、市の施設である「根浜シーサイド」が隣接しているため、日々観察対応を行っている。手法は、草刈り、外来種の抑制など必要に応じて適宜進めている。また、季節に応じて観察会を行い、住民への周知と環境保護への意識の醸成を高める活動を行っている。

